

北海道難病連苦小牧支部 平成29年度苦小牧市への要望事項

平成29年12月5日

苦小牧支部支部長 菊地 秀明

1 災害時の避難協力の要望

災害時の難病患者、障害者の避難には普段からの自らの備えと地域、町内会との連携が不可欠と思われます。苦小牧市に於きましてはこれらの対象になる方々の要支援者名簿を作成して頂いている段階と伺っております。

実際の運用はどの様に行われるのかお示しを頂ければと思います。

実際に活動されるのは地域町内会が中心となると思いますが、町内会の構成も高齢化が進んでいると思われます。その中で避難訓練なども必要になってくるかと思いますが、現時点で避難訓練がなされている町内会では要支援者を避難させる場合、どの様な問題点があるのか、又要望などがありましたらお聞かせ下さい。支部として協力出来る事柄については一緒に検討したいと思います。

又、苦小牧市として主体的な取り組みは不可欠ですので、しっかりした避難体制の整備を要望致します。

2 新設の苦小牧市民会館の設備環境に対する要望

苦小牧市は老朽化した市民会館を新設する方針と伺っておりますが、新設に関して是非、私達も積極的に参加出来る様な施設造りを要望致します。

1. 歩道、スロープは平坦な面で車椅子の前輪が引っ掛かり転倒などの危険が
無い素材にしてほしい。白杖の使用者には点字ブロックとの区別が付きやすい
仕上材にしてほしいと思います又、滑りやすい素材は避けて頂きたい。

2. 出入口には段差を作らないでください。止むを得ない場合はスロープ、手摺を設置して頂きたい。
3. 駐車場からの移動も車椅子で容易に出来るようにして頂きたい。
冬場の雪などを考慮して建物近くに難病患者、障害者の駐車スペースの設置と、転倒防止と移動しやすい融雪装置の設置も希望致します。
4. 建物内部の床素材は濡れて滑りやすい素材は使用しないでほしい。
5. 館内案内板は点字表示（展示ブロック、触地図）は勿論だが、弱視者にも理解しやすさを第一に考えて頂きたい。
- 6 階段、角等に色を付けて目立たせて欲しい。視覚障害者にとって、高さが変わるところと認識できる為。平坦地とスロープの境目など。
7. 手摺に点字案内プレートを埋め込んで頂きたい。
- 8 階段の蹴上は出来るだけ小さくしてほしい。片マヒの方の為に手摺は両方に設けて頂きたい。幅は広くとって欲しい。
9. 災害時の誘導は避難方向が聴覚障害者や視覚障害者が単独でもはっきりわかる様、配慮して頂きたい。（音声・光など）
10. エレベーターの設置を要望致します。（急病時の搬送ベットが入る大きさ）扉の適当な位置に透明な窓を設けて頂きたい。地震等で止まった時に聴覚障害者の手話や筆談が出来、安心が増す。
11. 音声で階数のアナウンスをしてほしい。
12. 各階に設置するトイレは男子、女子用にそれぞれ設置をお願いしたい。
13. 水洗トイレスイッチは車椅子の方が使用できる位置に設けて、
スイッチの種類も簡素でわかりやすい表示にして頂きたい。
(多すぎてわかりづらい)
14. 便座は正面を向いた形を基本にしてほしい。杖や車いすの方が

カニ歩きをしなければならない為、使いづらい。

15 車椅子の方でも使用できる低い位置に荷物掛けフックか物置台の設置をお願い致します。

16 トイレ内に災害を知らせる音、光による通報装置を設置していただきたい。

17、すべてのスイッチには点字表示をして頂きたい。

18、腹膜透析者のバック交換、疾患患者の休息等の為に部屋を設けて頂きたい。

19、観客席に難病患者、障害者の優先席を設けていただきたい。

(避難等の為、入口付近に設置)

20、避難通路、スロープは健常者とは一緒では混乱するので、

別のルートを設けて欲しい。

21、聴覚障害者、視覚障害者の為に、テロップ、イヤホンなどの設備をお願い致します。

22、館内に移動の手助けを頂けるボランティアの常駐を要望致します。

3 ヘルプマークについて

関節障害、妊婦、内部障害者、難病患者が社会生活に支障が有る場合に一般市民の皆様の手助け頂けるヘルプマークを身につける事で、障害者、妊婦、難病患者の活動範囲に幅を広げ、社会に積極的に参加できる環境づくりを目的に東京都で2012年に取り組み始めたとされています。

苫小牧市に於いても本年度中にヘルプマークの配布をお考えと伺っております。

私達にとりまして、困ったときに手助け頂けることは大変有難いことです。

ヘルプマークを付けている事で、手助けする方も手助けしやすくなると思います。

又、ヘルプカードに緊急の連絡事項などが記入出来れば尚、宜しいかと思っております。

市民の皆様にもヘルプマークは体に支障がある方が付けていて、困っている時には

手助けを求めて付けているのがヘルプマークと云う事を広報などで

周知活動を行なって頂きたいと思えます。

ヘルプマーク、ヘルプカードについて苫小牧市ではどの様に運用されるのか

お聞かせ下さい。

4 IPS 細胞による再生医療の要望

難病の治療薬、疾患のIPS細胞による再生医療には多くの期待を持っています。

本年11月5日に北海道難病連苫小牧支部主催で道央南地域研修会に於いて、

札幌医大の整形外科森田准教授の講演があり、脊髄損傷などで手足がマヒした

患者に再生医療を施すと、24時間後には動かなかった手足が動くようになる様子

を動画で見せて頂き、参加者から拍手と歓声が沸き起こりました。

先日、東京慈恵医大で腎臓の再生でも尿を造れるまでに進んでいるとの発表が

ありました。

今まで不活の病と云われて来た難病がこのように再生医療により希望が持てる状況に

なっていております。私達難病患者、障害者にとりまして大きな希望です。

この様な情報を苫小牧市として広報などで知らせて頂けませんか。

希望は生きる力に大いに役立つものと考えます。

5 苫小牧市発行の障害者地域生活支援ハンドブックについて

苫小牧市では 障害者地域生活支援ハンドブック「逢」あい を発行しておられます。

大変便利なハンドブックで両されている方も多いと思えます。

しかし、大変残念な事に、北海道難病連苫小牧支部の記載がなされておられません。

記載をお願い致します。

以上の5項目の要望を行います。正式な回答は文書でお願い致します。